

23日 木曜

I サムエル



16:14 さて、【主】の霊はサウルを離れ去り、【主】からの、わざわいの霊が彼をおびえさせた。

16:15 サウルの家来たちは彼に言った。「ご覧ください。わざわいをもたらず、神の霊が王をおびえさせています。」

16:16 わが君。どうか御前におりますこの家来どもに命じて、上手に豎琴を弾く者を探させてください。わざわいをもたらず、神の霊が王に臨むとき、その者が豎琴を手にして弾くと、王は良くなれるでしょう。」

16:17 サウルは家来たちに言った。「私のために上手な弾き手を見つけて、私のところに連れて来なさい。」

16:18 家来の一人が答えた。「ご覧ください。ベツレヘム人エッサイの息子を見たことがあります。弦を上手に奏でることができ、勇士であり、戦士の出です。物事の判断ができ、体格も良い人です。【主】が彼とともにおられます。」

16:19 サウルは使いをエッサイのところに送って、「羊とともにいるあなたの息子ダビデを、私のところによこしなさい」と言った。

16:20 エッサイは、ろば一頭分のパンと、ぶどう酒の皮袋一つ、子やぎ一匹を取り、息子ダビデの手に託してサウルに送った。

16:21 ダビデはサウルのもとに来て、彼に仕えた。サウルは彼がたいへん気に入って、ダビデはサウルの道具持ちとなった。

16:22 サウルはエッサイのところに人を遣わして、「ダビデを私に仕えさせなさい。気に入ったから」と言った。

16:23 神の霊がサウルに臨むたびに、ダビデ

は豎琴を手にとって弾いた。するとサウルは元気を回復して、良くなり、わざわいの霊は彼を離れ去った。

「主からの霊」とは「主の霊」ではなく、すべてのものは主の許しがあって存在するという考えからきている表現です。苦しみはサタンがつくるものですが、「主からの試練」と表現するのと同じです。

サウルは自分の苦しみ为主への反逆からきていることに気づいて、悔い改めるべきでしたが、それをせずに音楽に癒しを求めました。主の霊が離れた後だったので、悔い改めができなかったということも言えるでしょう。私たちがもしも悔い改めることができたなら、それな主の霊すなわち聖霊様によるものであるということ覚えて、感謝しましょう。

そのよう状況でダビデのことが話題になります。主によって選ばれて王となることが定まっていたダビデでしたが、それまでには主の定めたプロセスがあったのです。私たち1人1人の人生にも主の定めた計画がありますが、そこに至るプロセスがあり、成長やきよめまた備えがあることを知るべきです。

豎琴は王としての働きには関係ないようですが、それも無駄ではなく、王へのプロセスに用いられました。主のご計画に進む者にとっては何事も用いられ、心を込めて主のためにささげることは無駄ではないことを信じましょう。また期待しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

